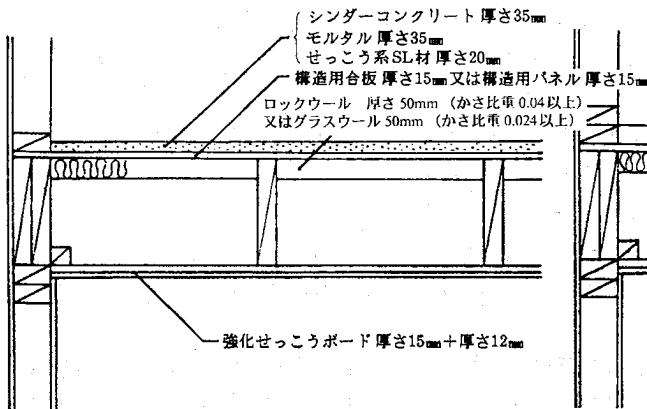


14. 省令準耐火構造の住宅の仕様

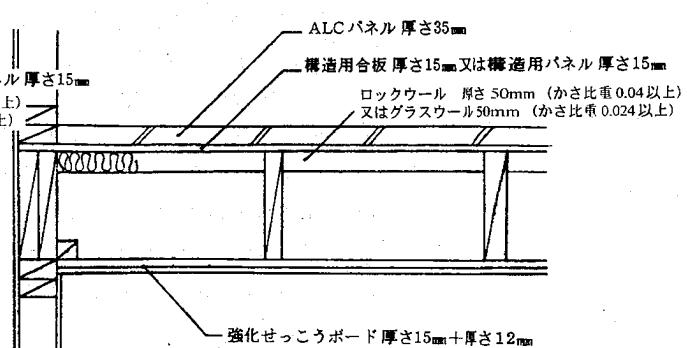
14.1	一般事項	1. 準耐火構造の住宅で、建築基準法第2条第9号の3イ又はロに規定する構造の住宅に準ずる耐火性能を有するものとして主務省令で定める技術的基準に該当する場合はこの項による。 2. この項に掲げるもの以外の材料又は仕様とする場合は、公庫の認めたものとする。
14.2	外壁・軒裏等	1. 屋根は不燃材料（建築基準法第2条第9号に規定する不燃材料をいう。）で造り、又は葺く。 2. 外壁の屋外側及び軒裏は、次のいずれかとする。 <input type="checkbox"/> イ. 鉄網モルタル塗で塗厚さを2cm以上とする。 <input type="checkbox"/> ロ. 木毛セメント板張又はせっこうボード張りの上に厚さ1.5cm以上モルタルを塗る。 <input type="checkbox"/> ハ. モルタル塗の上にタイルを張り、その厚さの合計を2.5cm以上とする。 <input type="checkbox"/> ニ. セメント板張又はかわら張の上にモルタルを塗り、その厚さの合計を2.5cm以上とする。 <input type="checkbox"/> ホ. イ、ロ、ハ及びニに掲げるもの以外の防火構造（建築基準法第2条第8号に規定する構造をいう。以下同じ）とする。 <input type="checkbox"/> ヘ. 前各号に定めるもの以外の仕様による場合は建築基準法第2条第8号の規定に基づき、国土交通大臣が認めるものとする。
14.3	界壁	住宅相互間の界壁の構造は、4.10.14（住宅間の界壁）の項により、せっこうボードの取付寸法は10.6.4.2（二枚張り）の項による。
14.4	界床	1. 住宅相互間及び住宅と住宅が共用する廊下、階段等の部分（共用部分）と住宅の間の界床の下地材料及び構造は次によるか又は、16.1.7（床（最下階の床を除く。））の項による。 イ. 界床の下面（天井部）は厚さ15mm以上のJIS A 6901（せっこうボード製品）の強化せっこうボードの適合品（以下「強化せっこうボード」という。）の上に厚さ12mm以上の強化せっこうボードを10.6.3.2（二枚張り）の項に基づき取り付ける。 ロ. 界床の上面（床部）は厚さ15mm以上の構造用合板又は厚さ15mm以上の構造用パネルを張った後、次のいずれかによる。 <input type="checkbox"/> ①モルタル、コンクリート（軽量コンクリート及びシンダーコンクリートを含む。）を厚さ35mm以上となるように流し込む。 <input type="checkbox"/> ②せっこう系S L材を厚さ20mm以上となるよう流し込む。 <input type="checkbox"/> ③厚さ35mm以上のA L Cパネルを敷き込む。 2. 室内に面する天井の構成を吊り天井とする場合の仕様は次のいずれかによる。 <input type="checkbox"/> イ. 吊り木受けから野縁を吊る場合 ①吊り木受けは床根太より小さい寸法形式の木材とし、床下張り材から離し、床根太間に取りつける。 ②吊り木は30mm×40mm以上の木材とし、1m以内の間隔で吊り木受けに取りつける。 ③野縁は30mm×40mm以上の木材とし、500mm以内の間隔で吊り木に取りつける。この際、床根太に平行する野縁は床根太の直下に設け、床根太下面と野縁上面の間隔は10mm以下とする。 ④野縁と野縁の天井裏には、厚さ50mm以上のロックウール（かさ比重0.04以上）又は厚さ50mm以上のグラスウール（かさ比重0.024以上）のいずれかを充填する。 <input type="checkbox"/> ロ. 吊天井根太を用いる場合 ①吊天井根太は床下張り材から離し、かつ床根太と天井下地材が離れるように吊天井根太の下面を床根太の下面より下げて500mm以内の間隔で取り付ける。 ②床根太と床根太の天井裏には、厚さ50mm以上のロックウール（かさ比重0.04以上）又は厚さ50mm以上のグラスウール（かさ比重0.024以上）のいずれかを充填する。 3. 界床を設ける場合の床根太、床ばり、まぐさ等のスパンは、構造計算による。

参考図14.4-1 界床（室内に面する天井の下地材料を床根太に直張りする場合）

(A) シンダーコンクリート等による場合

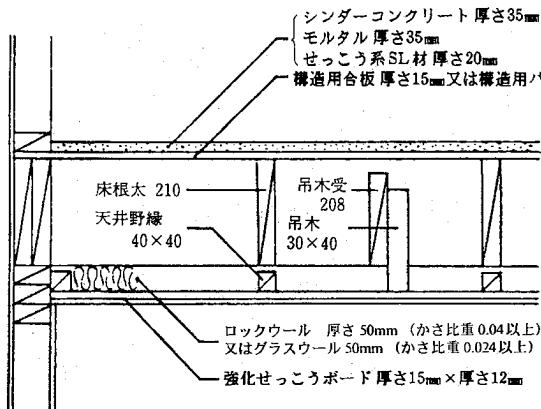


(B) ALCパネルによる場合

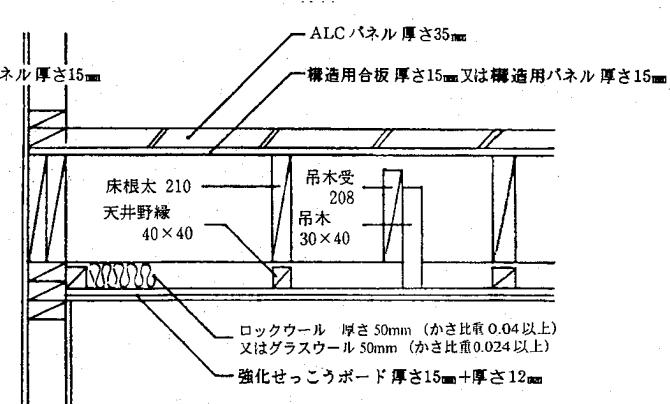


参考図14.4-2イ 界床（室内に面する天井の構成を吊天井とする場合）

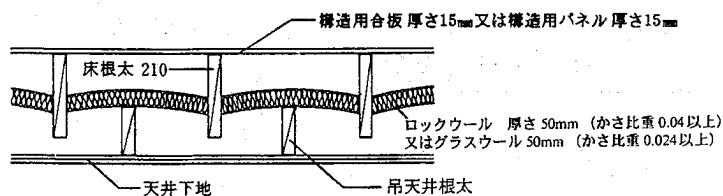
(A) シンダーコンクリート等による場合



(B) ALCパネルによる場合



参考図14.4-2ロ 界床（吊天井根太を用いる場合）



14.5 界壁及び界床以外の部分の内壁、天井

14.5.1 1戸建又は連続建の場合 1. 外壁の室内に面する部分の下地材料又は構造は、次のいずれかによる。ただし、外壁を防火構造の認定を受けたものとする場合は、2の項のロ又はハでもよいこととする。また、下地材料の取付方法は、10.6.4（壁張り）の項による。

イ. 厚さ12mm以上のせっこうボード張り。

ロ. 厚さ9.5mm以上のせっこうボード2枚張り。

2. 1. 以外の室内に面する壁の下地材料又は構造は次のいずれかによる。下地材料の取付方法は、10.6.4（壁張り）の項による。

イ. 厚さ12mm以上のせっこうボード張り。

ロ. 厚さ9mm以上のせっこうボード2枚張り。

ハ. 厚さ7mm以上のせっこうラスボード張りの上に厚さ8mm以上のプラスター塗り。

ニ. 防火構造

3. 室内に面する天井の下地材料又は構造は、次のいずれかとする。ただし、天井の構成を吊天井とする場合は、次のロ又はハとする。下地材料の取付方法は10.6.3（天井張り）の項による。

イ. 厚さ12mm以上のせっこうボード張り。

ロ. 厚さ9mm以上のせっこうボード2枚張り。

ハ. 厚さ9mm以上のせっこうボード張りの上に厚さ9mm以上のロックウール化粧吸音板張り。

ニ. 防火構造

4. 室内に面する天井の構成を吊天井とする場合の仕様は14.4（界床）の2による。

14.5.2 重ね建の場合

1. 室内に面する壁の下地材料又は構造は次による。

イ. 14.4（界床）の項による界床の下に存する住宅の壁にあっては、厚さ15mm以上のせっこうボードを10.6.4.1（一枚張り）の項に基づき取り付ける。ただし、地上階数2以下の重ね建の住宅にあっては、14.5.1（1戸建又は連続建の場合）の項による仕様とができる。

ロ. 界床の上に存する壁にあっては14.5.1（1戸建又は連続建の場合）の項の1による仕様とする。

2. 界床の上に存する住宅の下地材料又は構造は、14.5.1（1戸建又は連続建の場合）の項の3による仕様とする。

14.6 その他の

1. 壁及び天井の下地材料の目地は防火上支障のないよう処理する。

2. 壁又は天井の下地材料を貫通して設備器具を取付ける場合にあっては当該器具又は当該器具の裏面を当該部分に空隙が生じないよう不燃材料又は準不燃材料で造り又は覆うものとする。

3. 床又は天井と壁及び壁と壁との取合部には火災が相互に貫通しないよう、ころび止め（フアイヤーストップ材）を設ける。

15. 3 階建の仕様

15.1 一般事項

- 15.1.1 総則 1. 3階建の住宅の基礎、土台、床枠組、壁枠組、小屋組及び防火仕様は、この項による。
2. 前号に掲げる項目以外の項目は、それぞれ1. (一般事項) ~3.3 (地下室の基礎壁)、4.1 (一般事項) ~4.7 (浴室等の防水措置)、5. (屋根工事) ~14. (省令準耐火構造の住宅の仕様) の各項による。
- 15.1.2 構造計算等 1. 3階建の住宅は、建築基準法に基づく構造計算により構造耐力上の安全性を確認したうえ、仕様を決めるものとする。
2. この項に掲げる釘の種類、本数、釘打ち間隔、金物の種類、金物の設置間隔など構造設計に関わる数値等は、全て構造耐力上の安全性を確認したうえ決定するものとする。

15.2 基礎工事

15.2.1 一般事項 1. 基礎は、1階の外周部及び内部耐力壁の直下に設ける。

2. 基礎の構造は次のいずれかとする。

- イ. 布基礎 (長期許容応力度 $30kN/m^2$ 以上)
- ロ. 腰壁と一体となった布基礎 (長期許容応力度 $30kN/m^2$ 以上)
- ハ. ベた基礎 (長期許容応力度 $20kN/m^2$ 以上 $30kN/m^2$ 未満)
- ニ. 基礎ぐいを用いた構造 (長期許容応力度 $20kN/m^2$ 未満)

15.2.2 基礎

- 15.2.2.1 布基礎 1. 布基礎の構造は、一体の鉄筋コンクリート造 (部材相互を繋結したプレキャストコンクリート造を含む。) とする。
2. 根入れの深さは、構造計算による寸法以上、かつ、3.4.2 (布基礎) の項による。
3. 地面からの布基礎の立上りは、構造計算による寸法以上、かつ、3.4.2 (布基礎) の項による。
4. 布基礎の立上り部分の幅は、 $150mm$ 以上で土台の幅以上とする。
5. 布基礎の底盤の厚さ及び幅は構造計算による寸法以上、かつ、3.4.2 (布基礎) の項による。
6. 配筋は構造計算によるものとし、かつ、3.4.2 (布基礎) の項による。

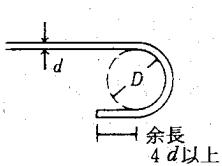
- 15.2.2.2 ベた基礎・基礎ぐい ベた基礎及び基礎ぐいを用いた場合の構造は長期地耐力に応じ、構造計算によることとし、かつ、3.4.3 (ベた基礎) 及び3.4.4 (基礎ぐい) の項による。

- 15.2.3 鉄筋材料及び加工 1. 異形鉄筋及び丸鋼の品質は、JIS G 3112 (鉄筋コンクリート用棒鋼) 又はJIS G 3117 (鉄筋コンクリート用再生棒鋼) に適合するものとし、その種類及び径などは特記による。
2. 鉄筋の径は、異形鉄筋では呼び径、丸鋼では径とする。

15
3
階
建

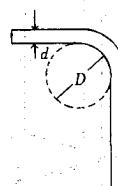
参考図15.2.3 鉄筋の折り曲げ

(A) 鉄筋末端の折曲げ形状・寸法



折り曲げ内の寸法(D)
 $3d$ 以上

(B) 鉄筋中間部の折曲げ形状・寸法

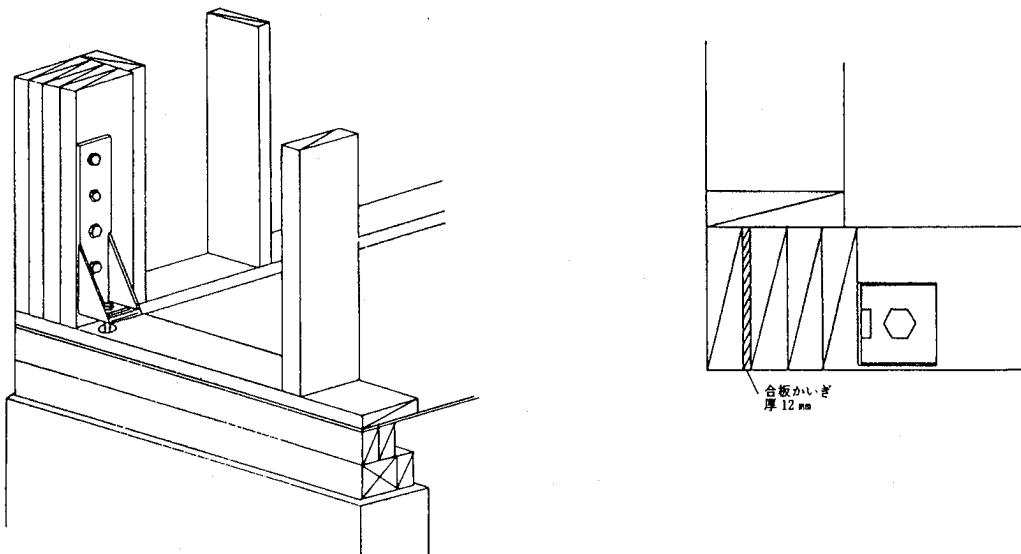


折り曲げ内の寸法(D)
 $3d$ 以上

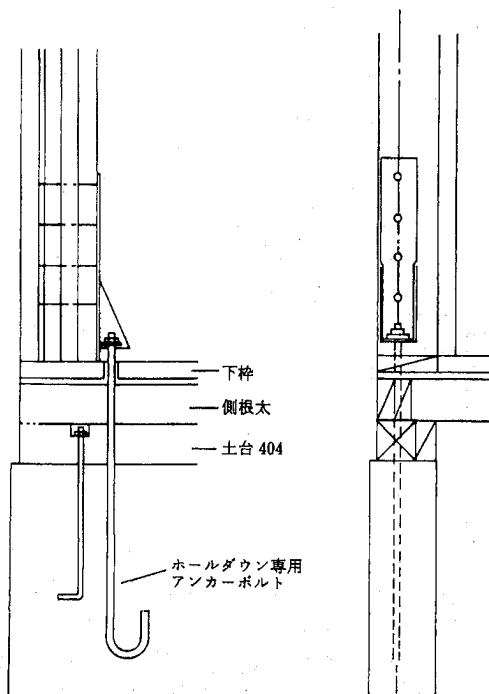
- 15.2.4 アンカーボルト 1. アンカーボルト及び座金は、品質及び性能が明らかで良質なものとする。
2. アンカーボルトの埋設位置は、次による。
- イ. 掃き出し窓の両端部のたて枠から150mm以内の位置
 - ロ. 住宅の隅角部、土台の継手部分及び土台切れの箇所
 - ハ. 上記イ及びロ以外の部分においては、間隔2.0m以内の位置
3. アンカーボルトの心出しは、型板を用いて基準墨に正しく合わせ、適切な機器などで正確に行う。
4. アンカーボルトのコンクリートへの埋込み長さは250mm以上とする。なお、アンカーボルトの先端は、ナットの外にねじ山が3山以上出るように固定する。
5. アンカーボルトの保持は、型板を用いるなどして正確に行い、移動、下部の振れなどのないように、十分固定する。
6. アンカーボルトの保持及び埋込み工法の種別は、特記による。特記がない場合は、アンカーボルトを鉄筋などを用いて組立て、適切な補助材で型枠の類に固定し、コンクリートの打ち込みを行う。
7. アンカーボルトは、衝撃などにより有害な曲がりを生じないように取り扱う。また、ねじ部の損傷、さびの発生、汚損を防止するために布、ビニールテープなどを巻いて養生を行う。
- 15.2.5 ホールダウン専用アンカーボルト 1. ホールダウン専用アンカーボルトは、品質及び性能が明らかで良質なものとし、コンクリートへの埋込み長さは360mm以上とする。
2. ホールダウン専用アンカーボルトの埋設方法は次による。
- イ. ホールダウン金物をホールダウン専用アンカーボルトで直接緊結する場合は、取り付くたて枠の位置にホールダウン専用アンカーボルトを正確に埋込む。
 - ロ. ホールダウン金物を土台用専用座金付ボルトで緊結する場合は、2本のアンカーボルトをそれぞれ土台用専用座金付ボルトの心より150mm内外に埋込む。
3. ホールダウン専用アンカーボルトの心出し・保持等は、15.2.4(アンカーボルト)の3、5、6及び7の項による。

参考図15.2.5 ホールダウン金物を用いた緊結方法

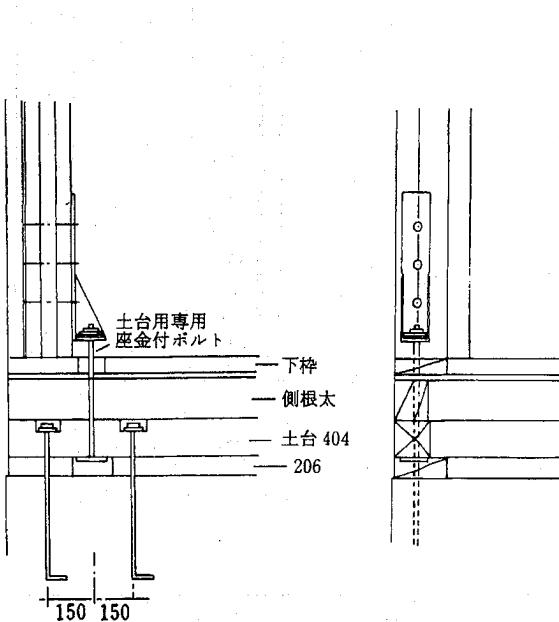
(A) 土台に404を用いる場合



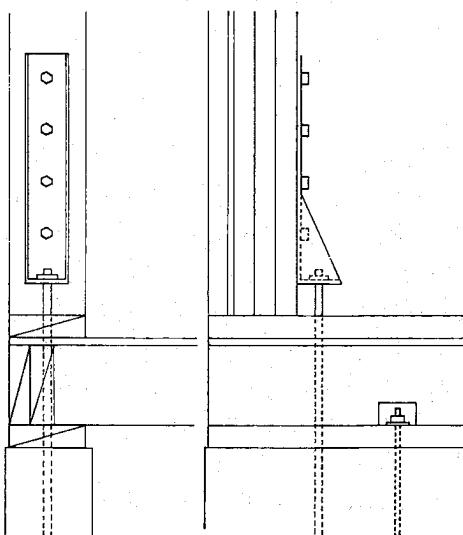
(A-1) 比較的引き抜き応力が大きい場合の施工例



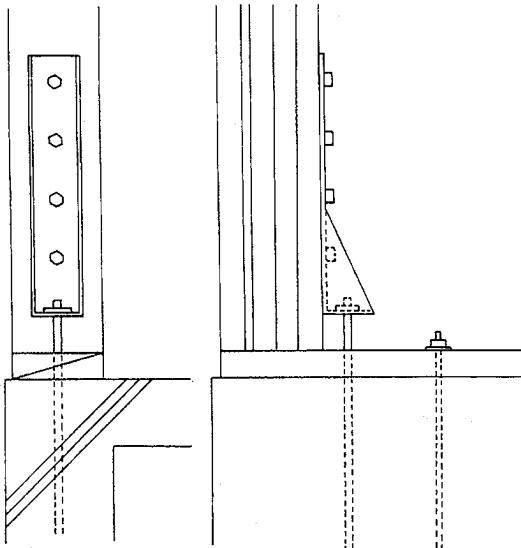
(A-2) 比較的引き抜き応力が小さい場合の施工例



(B) 土台に206を用いる場合



(C) 基礎を床と一体の布基礎とした場合



15.3 土台

- 15.3.1 土台の寸法型式 1. 土台の寸法は、寸法型式204、206、208、404、406若しくは408に適合するもの又は厚さ38mm以上、幅89mm以上で国土交通大臣による基準強度の指定を得たものであって、かつ、土台と基礎若しくは床根太、端根太若しくは側根太との緊結に支障がないものとする。
2. 土台が基礎と接する面には、防水紙、その他これに類するものを敷く等の防腐措置を講ずる。
3. 土台の幅は、下枠の幅と同寸以上とする。
- 15.3.2 大引き、束を用いた床組及び床下張り 4. 8.3 (大引き、つかを用いた床組) 及び4.8.4 (大引き、つかを用いた床組の床下張り) の項による。

15.4 床枠組

- 15.4.1 床根太 1. 床根太、端根太及び側根太の寸法は、寸法型式206、208、210若しくは212に適合するもの又は厚さ38mm以上、幅140mm以上で国土交通大臣による基準強度の指定を得たものであって、かつ、床根太、端根太若しくは側根太と土台、頭つなぎ若しくは床材との緊結に支障がないものを縦使する。
2. 床根太の釘打ちは、土台、頭つなぎ、床ばりなどに対して、2本のCN75を斜め打ちする。ただし、1,100N以上の短期許容せん断耐力を有する釘打ちは、特記による。
- 15.4.2 床根太の継手 床根太の継手は、4.9.2 (床根太の継手) の項による。
- 15.4.3 側根太と端根太 1. 側根太には、同寸の添え側根太と添え付け、釘打ちは、CN75を両端部2本、中間部300mm間隔以内に千鳥に平打ちする。
2. 端根太と側根太部、添え側根太及び床根太との仕口は、それぞれ3本以上のCN90を木口打ちする。
3. 端根太部には、床根太間及び床根太と添え側根太の間に端根太ころび止めを設け、それぞれ4本のCN75を平打ちする。
4. 側根太及び端根太から土台又は頭つなぎに対する釘打ちは、1階にあってはCN75を間隔250mm以内に、2階又は3階にあってはCN75を間隔500mm以内に斜め打ちする。ただし、1階にあっては2,200N/m、2階又は3階にあっては1,100N/m以上の短期許容せん断耐力を有する釘打ちは、特記による。
5. 側根太及び端根太の継手の仕様は、構造計算による。
- 15.4.4 ころび止め ころび止めは、4.9.4 (ころび止め) の項による。
- 15.4.5 床開口部 開口部を補強する開口部端根太及び開口部側根太は、これを構成する床根太と同寸以上の寸法型式のものとする。

- 15.4.6 床下張り
1. 床根太間隔を50cm以下とする場合の床下張り材の品質は、4.9.9(床下張り)の項の1による。
 2. 床根太間隔を50cmを超え65cm以下とする場合の床下張り材の品質は、4.9.11.5(床下張り)の項による。
 3. 構造用合板は、表面纖維方向が床根太方向と直交するように張り、パーティクルボード、構造用パネル、硬質木片セメント板、MDF及び火山性ガラス質複層板は、長手方向が床根太方向と直交するように張る。
 4. 床下張りは、千鳥張りし、3本以上の床根太にかかるようする。
 5. 接着剤を用いて床下張りを行う場合は、住・木センター認定の床用現場接着剤又はこれと同等以上の性能を有するものを床根太部分及び受け材部分又は木ざね部分のよごれ、付着物を除去したうえで塗布する。
 6. 床下張材の突き合わせ部分には、寸法型式204の2つ割り(38mm×40mm以上)の受け材を入れる。
 7. 床下張材の釘打ちは、次による。
 - イ. CN50(床下張材の厚さが15mm以上の場合CN65)を周辺部150mm間隔以内、中間部200mm間隔以内で床根太又は床梁及び受け材に平打ちする。ただし、MDF及び火山性ガラス質複層板の釘打ちは、特記による。
 - ロ. 短期許容せん断耐力が周辺部2,800N/m、中間部2,100N/m以上を有する釘打ちは、特記による。
 8. 床下張材に湿潤によるふくらみ等の恐れがある材料を用いる場合は、突きつけ部分を2～3mmあけ、かつ適切な防水措置を施す場合は、次のいずれかによる。
 - イ. タール系のペイント又は油性ペイントで、水口全面を塗布する。
 - ロ. 目地の部分に防水テープを張る。
 - ハ. 床養生シートを張る。

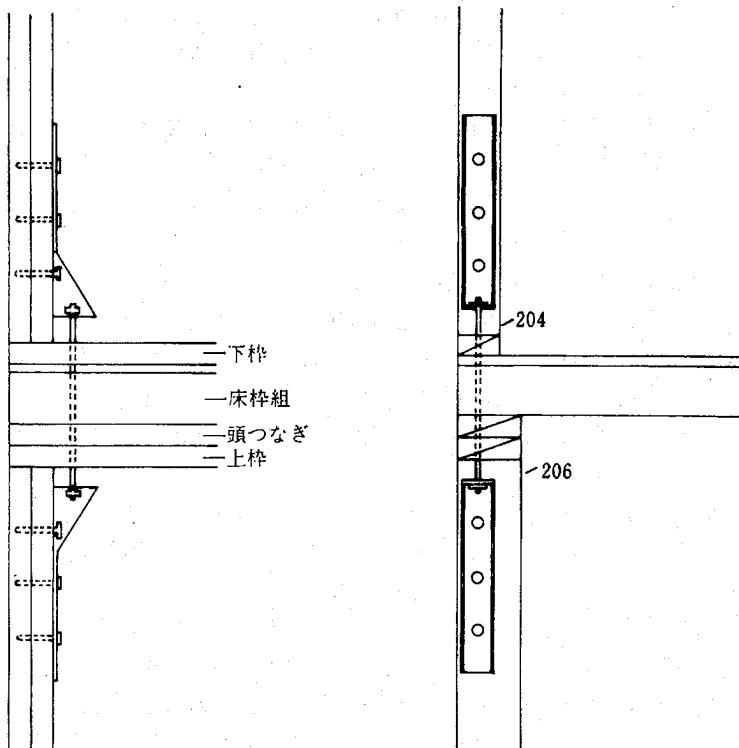
15.5 壁枠組

- 15.5.1 耐力壁
1. 耐力壁の幅はその高さの1/3以上とする。
 2. 耐力壁線相互の間隔は12m以下とし、かつ、耐力壁線により囲まれた部分の面積は60m²以下とする。
 3. 耐力壁の下枠、たて枠及び上枠の寸法は、寸法型式204、206、208、404、406若しくは408に適合するもの又は厚さ38mm以上、幅89mm以上で国土交通大臣による基準強度の指定を得たものであって、かつ、下枠、たて枠若しくは上枠と床版の枠組材、頭つなぎ、まぐさ受け若しくは筋かいの両端部との緊結及び下枠若しくは上枠とたて枠との緊結に支障がないものとする。
 4. 3階部分を小屋としない場合の1階のたて枠は、寸法型式206若しくは208に適合するもの又は厚さ38mm以上、幅140mm以上の製材で国土交通大臣による基準強度の指定を得たものとする。
 5. たて枠相互の間隔は650mm以内とする。
 6. 3階部分を小屋としない場合の1階のたて枠相互の間隔は、当該たて枠に寸法型式206に適合するもの又は厚さ38mm以上、幅140mm以上の製材で国土交通大臣による基準強度の指定を得たものを使用する場合は、500mm以内とする。
 7. 2階又は3階の耐力壁の直下には、原則として、耐力壁を設ける。なお、これらによらない場合は、当該耐力壁直下の床根太を構造力上有効に補強する。
 8. 耐力壁の種類は、耐力壁のたて枠相互の間隔が50cm以下の場合は4.10.1(耐力壁)の項の5、当該間隔が50cmを超える場合は、4.10.17.4(耐力壁)の項による。
 9. 通常の耐力壁の下枠の下端から頭つなぎの上端までの寸法は、2,450mmを標準とする。
- 15.5.2 1階たて枠と基礎(土台)との緊結
1. 外周部の主要な隅角部のたて枠及び引抜き応力が大きいたて枠は、接合金物(ホールダウン金物)を用いて基礎と緊結する。
 2. 接合金物は、品質及び性能が明らかで良質なものとする。
 3. ホールダウン金物で、土台を介して基礎とたて枠を直接緊結する場合は、次による。

	<p>イ. ホールダウン金物は、柱の下部に締め代をとり、六角形ボルト、ラグスクリュー又はZ N90でたて枠に緊結する。</p> <p>ロ. ホールダウン金物の下部は、ホールダウン専用アンカーボルトに土台を介してナットで緊結する。</p>
4.	ホールダウン金物で、土台を介し基礎とたて枠を緊結する場合、次による。
	<p>イ. ホールダウン金物の取付は、前号イによる。</p> <p>ロ. ホールダウン金物の下部は、土台専用座金付ボルトに固定し、15.2.5の項の2のロにより緊結する。</p>
5.	外周部の主要な隅角部及び引抜き応力が大きいたて枠と基礎又は上台との緊結に、接合金物としてホールダウン金物以外のものを使用する場合は、特記による。
15.5.3 耐力壁の上枠及び下枠	<p>1. 上枠及び下枠は、それぞれの壁面ごとに一体のものを用いる。</p> <p>2. 上枠とたて枠の仕口は、上枠側から2本以上のC N90を木口打ちとする。また、下枠とたて枠の仕口は、下枠側から2本以上のC N90を木口打ちとするか、たて枠から3本以上のC N75を斜め打ちする。ただし、1,000N以上の短期許容せん断耐力を有する釘打ちは、特記による。</p>
15.5.4 耐力壁の頭つなぎ	<p>1. 頭つなぎ、上枠と同寸の寸法型式のものとし、なるべく長尺材を用い、継手は、上枠の継手位置より600mm以上離す。</p> <p>2. 隅角部及びT字部での頭つなぎの仕口は、上枠と頭つなぎが相互に交差し重なるようにおさめる。</p> <p>3. 頭つなぎと上枠との接合は、頭つなぎから上枠へC N90を端部は2本以上、中間部は500mm間隔以内に平打ちとする。ただし、1,600N/m以上の短期許容せん断耐力を有する釘打ちは、特記による。</p>
15.5.5 耐力壁の隅柱	<p>1. 耐力壁の隅柱は、3本以上のたて枠で構成する。ただし、たて枠を寸法型式206以上とし、その間隔を一般地で50cm以下、多雪区域、垂直積雪量1.0m以下の区域で45cm以下、垂直積雪量1.0mを越え2.0m以下の区域で35cm以下とする場合、隅柱のたて枠を2本とすることができる。</p> <p>2. 隅角部におけるたて枠とたて枠の緊結は、合わせたて枠、かいぎ等を介して、C N90を間隔300mm以内に平打ちする。</p>
15.5.6 耐力壁線の開口部	<p>1. 耐力壁線に設ける開口部の幅は4m以下として、その開口部の幅の合計は、その耐力壁線の長さの3/4以下とする。</p> <p>2. 耐力壁線に幅900mm以上の開口部を設ける場合は、原則として、まぐさ及びまぐさ受けを用いる。</p> <p>3. 開口部にまぐさ受けを用いる場合のたて枠とまぐさ受けの緊結は、まぐさ受けからたて枠へC N90を間隔を300mm以内に平打ちする。</p>
15.5.7 外壁の耐力壁線相互の交差部の耐力壁	外壁の耐力壁線相互の交差部には、原則として、長さ90cm以上の耐力壁を1以上設ける。
15.5.8 外壁下張り	外壁下張りは、4.10.9(外壁下張り)の項による。
15.5.9 筋かい	筋かいは、4.10.11(筋かい)の項による。
15.5.10 ころび止め	ころび止めは、4.10.12(ころび止め)の項による。
15.5.11 住戸間の界壁	連続建の住戸間の界壁は、4.10.14(住戸間の界壁)の項による。
15.5.12 壁枠組と床枠組及び土台との緊結	<p>1. 壁枠組と床枠組との緊結は、下枠から床根太、側根太、端根太及びころび止めへ、1階にあってはC N90を間隔250mm以内に、2階又は3階にあってはC N90を間隔500mm以内に平打ちする。ただし、1階にあっては3,200N/m、2階又は3階にあっては1,600N/m以上の短期許容せん断耐力を有する釘打ちは、特記による。</p> <p>2. 外壁の隅角部隅柱及び外壁の開口部の両端に接する耐力壁のまぐさ受けが取り付いたて枠は、直下の壁のたて枠、床枠組又は上台にホールダウン金物、帶金物又はかど金物で構造耐力上有効に緊結する。</p> <p>3. 前号において壁材で構造耐力上有効に緊結する場合は、金物を省略することができる。</p>

15.5.13 ホールダウン金物 1. 1階の耐力壁の端部で、外周部の主要な隅角部のたて枠及び引き抜き応力の大きいたて枠を用いる場合 枠は、ホールダウン金物を用いて2階の耐力壁端部のたて枠と緊結する。
 の1階の壁枠組 2. 接合金物（ホールダウン金物）は、品質及び性能が明らかで良質なものとする。
 と2階の壁枠組 3. ホールダウン金物の取り付くたて枠は、2本以上の合わせたて枠とする。
 との緊結方法 4. ホールダウン金物は、2階の合わせたて枠の下部及び1階の合わせたて枠の上部に締め代をとり、六角ボルト、ラグスクリュー又はZN90でたて枠に取り付ける。また、ホールダウン金物同士は六角ボルトを用いて緊結する。

参考図15.5.13 ホールダウン金物を用いる場合の1階の壁枠組と2階の壁枠組との緊結方法



15.6 小屋組

15.6.1 一般事項 1. 小屋組を構成するたるき及び天井根太の寸法は、寸法型式204、206、208、210若しくは212に適合するもの又は厚さ38mm以上、幅89mm以上で国土交通大臣による基準強度の指定を得たものであつて、かつ、たるき若しくは天井根太とむなぎ、頭つなぎ若しくは屋根下地材との緊結に支障がないものとし、それら相互の間隔は650mm以内とする。
 2. たるき又はトラスは、頭つなぎ及び上枠に金物で構造耐力上有効に緊結する。
 3. 小屋組は、振れ止めを設ける等水平力に対して安全なものとする。

15.6.2 小屋組の各部材

相互及び小屋組の部材と頭つなぎとの緊結

15.6.2.1 天井根太と頭つなぎ 又ははり 天井根太から頭つなぎ又ははりに対しては2本のCN75を斜め打ちする。ただし、1,100N以上の短期許容せん断耐力を有する釘打ちは、特記による。

15.6.2.2 むなぎとたるき 1. むなぎは、たるきより1サイズ以上大きな寸法型式のものを用い、頂部は勾配に沿って角度を付ける。
 の接合 2. たるきからむなぎへは、3本のCN75を斜め打ちする。ただし、1,700N以上の短期許容せん断耐力を有する釘打ちは、特記による。

15.6.2.3	たるきと頭つなぎの接合	たるきと頭つなぎの接合は、4.12.2.4（たるきと頭つなぎの接合）の項による。
15.6.2.4	たるきと天井根太の接合	たるきと天井根太の接合は、4.12.2.5（たるきと天井根太の接合）の項による。
15.6.2.5	トラスと頭つなぎの接合	トラスと頭つなぎの接合は、4.12.4.2（トラスと頭つなぎの接合）の項による。
15.6.3	屋根下張り	<p>1. たるき間隔を50cm以下とする場合の屋根下張材の品質は、4.12.15（屋根下張り）の項の1による。</p> <p>2. たるき間隔を50cmを超え65cm以下とする場合の屋根下張材の品質は、4.12.17.4（屋根下張り）の項による。</p> <p>3. 構造用合板は、表面纖維方向が床根太方向と直交するように張り、パーティクルボード、構造用パネル、硬質木片セメント板、MDF及び火山性ガラス質複層板は、長手方向が床根太方向と直交するように張る。</p> <p>4. 屋根下張りは千鳥張りとし、3本以上のたるき又はトラス上弦材にかかるようにし、軒先面から張り始め、むなぎ頂部で寸法調整する。</p> <p>5. 屋根下張材の継手部分には、寸法型式204の2つ割り（38mm×40mm以上）の受け材を入れる。</p> <p>6. 屋根下張材の釘打ちは、次による。</p> <ul style="list-style-type: none"> イ. CN50（床下張材の厚さが15mm以上の場合はCN65）を周辺部150mm間隔以内、中間部200mm間隔以内で床根太又は床ばり及び受け材に平打ちする。ただし、MDF及び火山性ガラス質複層板の釘打ちは、特記による。 ロ. 短期許容せん断耐力が周辺部2,600N/m、中間部1,300N/m以上を有する釘打ちは、特記による。 <p>7. 屋根下張り材にパーティクルボード（耐水性のある接着剤を用いた規格を除く）を用いる場合は、4.9.9（床下張り）の7に準じて防水処理を行う。</p>
15.7	防火仕様	
15.7.1	一般事項	<p>1. 準防火地域で3階建の木造の住宅とする場合の防火仕様は、この項による。</p> <p>2. 準耐火構造の住宅の防火仕様は、14（省令準耐火構造の住宅の仕様）又は17（高性能準耐火構造の住宅の仕様）又は16（準耐火構造の住宅の仕様）による。なお、14（省令準耐火構造の住宅の仕様）により準防火地域で3階建の木造の住宅を建設する場合は、同仕様によるほか、15.7.5（屋根の裏面又は屋根の直下の天井）及び15.7.7（3階部分の区画）並びに15.7.8（外壁の開口部）の各項による。</p>
15.7.2	外壁・軒裏	外壁・軒裏は、14.2（外壁・軒裏等）の項による。
15.7.3	外壁の屋内に面する部分及び耐力壁	<p>外壁の屋内に面する部分及び耐力壁の防火被覆は次のいずれかとする。</p> <p><input type="checkbox"/>イ. 厚さ12mm以上のせっこうボード張り</p> <p><input type="checkbox"/>ロ. 厚さ5.5mm以上の難燃合板の上に厚さ9.5mm以上のせっこうボード張り。</p> <p><input type="checkbox"/>ハ. 厚さ9.5mm以上のせっこうボードの上に厚さ9.5mm以上のせっこうボード張り。</p> <p><input type="checkbox"/>ニ. イ、ロ又はハと同等以上の防火性能を有すると国土交通大臣が認めたもの。</p>
15.7.4	天井	<p>天井の防火被覆は次のいずれかとする。</p> <p><input type="checkbox"/>イ. 14.5.1（1戸建又は連続建の場合）の項の3による。</p> <p><input type="checkbox"/>ロ. 厚さ5.5mm以上の難燃合板の上に厚さ9mm以上のせっこうボード張り。</p> <p><input type="checkbox"/>ハ. 厚さ5.5mm以上の難燃合板の上に厚さ9mm以上のロックウール吸音張り。</p> <p><input type="checkbox"/>ニ. イ、ロ又はハと同等以上の防火性能を有すると国土交通大臣が認めたもの。</p>
15.7.5	屋根の裏面又は屋根の直下の天井	<p>屋根の裏面又は屋根の直下の天井の防火被覆は次のいずれかによる。</p> <p><input type="checkbox"/>イ. 厚さ12mm以上のせっこうボード張りの上に厚さ9mm以上のせっこうボード張り。</p> <p><input type="checkbox"/>ロ. 厚さ12mm以上のせっこうボード張りの上に厚さ9mm以上のロックウール吸音張り。</p> <p><input type="checkbox"/>ハ. 厚さ9mm以上のせっこうボード張りの上に厚さ12mm以上のせっこうボード張り。</p> <p><input type="checkbox"/>ニ. イ、ロ又はハと同等以上の防火性能を有すると国土交通大臣が認めたもの。</p>

15.7.6	防火被覆材の目地、取合部等	防火被覆材の目地、取合部等は、14.6(その他)の項の1及び2による。
15.7.7	3階部分の区画	3階部分の部屋には、間仕切壁又は戸（ふすま、障子等を除く）を設ける。
15.7.8	外壁の開口部	外壁の開口部に設ける建具は特記による。
15.7.9	屋根	屋根の構造方法は次のいずれかとする。 <input type="checkbox"/> イ. 不燃材料で造るか、又はふくこと。 <input type="checkbox"/> ロ. 準耐火構造（屋外に面する部分を準不燃材料で作ったものに限る）。
15.8	避難措置等	
15.8.1	避難用器具	3階の部屋又はバルコニーには、13.5.5（避難用器具）の項による避難用器具を設ける。
15.8.2	火災報知設備	火気使用室には、13.5.4（火災報知設備）の項による火災報知設備を設ける。
15.8.3	手すり	3階の部屋及びバルコニーには、手すりを設ける。